

「多文化共生パートナー  
育成講座」  
NGO側中間報告

名古屋NGOセンター

中島隆宏

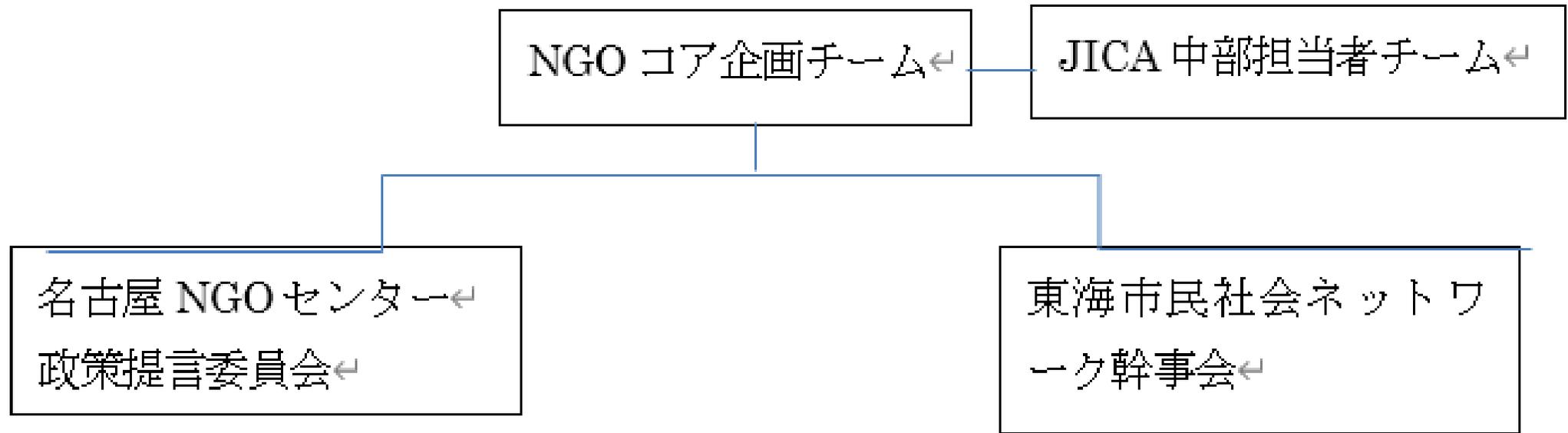
# 2022年度多文化共生パートナー育成講座 中間報告

- 第一回基礎講座、第二回選択講座を終えて、第三回アクション発表会を控えている現時点で、グループファシリアンケートを中心に振り返る。
- 多文化共生分野の人材育成の問題意識について

# 2021年度シンポジウムを終えて

- ユースを多文化共生の担い手に育ててもらおう。一緒に育ち合う。(C) 子どもの問題、その対策はこれからみんなで考える課題である。(T)
- 社会の課題を知る人を増やす。(C)
- 多文化の人材が参加者の中に多かった。主導できる人も多い。また、熱量が高い人たちも多かった。もう一度声をかけて、一緒に活動を担ってもらおう。それらの人たちと一緒に社会の壁、構造を乗り越える。(C)
- ワークショップをメインとしたプログラム（担い手発掘・皆でともに育ちあうための）ができると良い このシンポジウムの参加者を中心に募集を行って、『みんなのアクション』を考え、つくりあげるワークショップを行えたら良いと思う。(F)
- 私たちと外国人をいきなり結びつけるというのは難しくても、みんな似たような問題（生きづらさ）を抱えているという視点から市民を結びつけていく。(P)
- 現場の活動とその経験を制度に生かすまでの方法をそれぞれに考え、実行できるようなガイドラインをつくる (A)

# 運営体制



## コアメンバー

1. 当事者団体：日本ボリビア人協会、多文化共生団体：名古屋YWCA、地域と協同の研究センター、2. 中間支援団体：名古屋NGOセンター、東海市民社会ネットワーク、地域の未来・志援センター、中部サステナ政策塾
3. 教育関係：名古屋外国語大学教員、学生、4. 2021年度開催シンポジウム「海外ルーツの市民と日本社会」参加者

# 企画書より

## I. ビジョン：

- 新しいルールを海外ルーツの市民と日本の私たちが共につくる公正な社会。

## II. 目的：

- 多文化共生に関心のある人を対象に、無意識の差別・偏見が多文化共生における諸問題の根本の問題であることを知ってもらい、講義やワークショップ、現場の話を聴くことから自己と諸問題の関係について振り返り、気づき、意識を改革してもらうことで、無関心層と海外ルーツの市民や支援団体の橋渡し役をする人になってもらう。

## III. 対象：

- ユースを中心とした多文化共生に関心のある人

# 準備段階

## コアグループ関係

### ① 2022年4月1日 事前会合

この間に前回シンポジウム参加者への委員公募、当事者にも委員の依頼を行う。

### ① 2022年5月10日 第一回コアグループ会合(22名で発足)

### ② 2022年5月16日 第二回コアグループ会合

### ③ 2022年6月22日 第三回コアグループ会合

### ④ 2022年7月13日 第四回コアグループ会合

### ⑤ 2022年8月11日 第五回コアグループ会合

### ⑥ 2022年9月7日 第六回コアグループ会合

### ⑦ 2022年10月12日 第七回コアグループ会合

### ⑧ 2022年11月8日 第八回コアグループ会合

### ⑨ 2022年12月6日 第九回コアグループ会合

### ⑩ 2023年1月27日 第十回コアグループ会合

### ⑪ 2023年3月7日 第十一回コアグループ会合(予定)

## JICA中部とNGO側打ち合わせ

### ① 2022年8月17日 JICA中部へ提案書

### ② 2022年10月20日 第一回打ち合わせ

### ③ 2022年12月1日 第二回打ち合わせ

### ④ 2023年1月19日 第三回打ち合わせ

コアグループ担当者会(以下の分科会について各2回、担当者会及び講師打ち合わせをもった。(12月末から1月中)

### ① 学び・職場

### ② 労働A,労働B

### ③ 老いと地域A.老いと地域B

参加者：会場14名、ユース11名、ウェビナー28名。計53名  
NGO側スタッフ：対面17名 オンライン3名(グループファシリ7, サブ8)

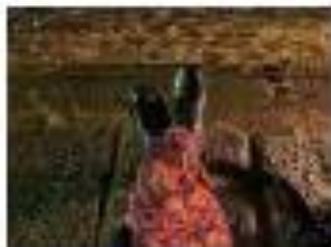
## 第1回：基礎講座（ホップ） 12/18（日）13:30～16:30

金友子氏（立命館大学国際関係学部准教授）の基調講演とそれを踏まえた体験型ワークショップにより、無意識の差別・偏見について理解し、自己を振り返り、気づきのプロセスを持つ講座です。

### プログラム：

- 13:30～15:00 第1部：基調講演「マイクロアグレッションー日常に潜む見えない差別」  
講師 金友子氏（立命館大学国際関係学部准教授）
- 15:00～16:00 第2部：体験型ワークショップ
- 16:00～16:30 まとめ

第1部はどなたでも  
参加いただけます！



### 講師：金友子（きむうぢゃ）氏

立命館大学国際関係学部准教授。専門領域は在日朝鮮人をめぐる問題、ジェンダー研究・フェミニズム理論など。在日朝鮮人をはじめとして朝鮮半島から世界各地に離散した朝鮮民族のエスニック/ナショナルアイデンティティと彼等・彼女らの歴史を研究する傍ら、離散民が居住国において社会的マイノリティとして直面する差別や抑圧の問題に関心をもって来た。

# NGO側振り返りーグループファシリアン ケートを中心に

- 第一回基礎講座ーグループファシリアンケート 回答数10
- 第二回選択講座ーグループファシリアンケート 回答数10
- 設問 記述式
  - 1 グループの様子について特に気が付いたこと（構成、関心、今後のつながりの可能性など）
  - 2 よかったこと
  - 3 改善点
  - 4 その他自由に
  5. 選択講座のみの設問

グループファシリの方は問題分析ワークショップの内容とプロセスについても次に記してください。  
(問題分析の模造紙の写真はとっていますのでそれは記述しなくても結構です。)

# 基礎講座 講演（よかった点、改善点）

## 良かった点

- 予想以上に胸に響いてくる内容であり、また全体発表に対するコメントも的確だと感じた。
- 金先生からの学びはたくさんあると感じた。今回は事例を通して、金先生の講義が深めることができた。

## 改善点

- 参加者が日本の植民地政策についてほぼ認識がなかったことです。日本の近代史（バブル期以降の労働力不足→技能実習生制度を作ってきた背景）を若い世代にどのように伝えていくか、大きな課題ではないかと感じました。

# 基礎講座ワークショップ（よかった点）

- 外国にルーツをもつ人と、日本人がいたので、マイクロアグレッションを受ける側・生じさせる側の感じ方を、現実には起こっているものとして話しあうことができた。
- はっきりとした正解が見つからないことにたいして思いっきり自分の意見をぶつけ何人かでディスカッションすることにより**新しい視点**を見つけることができた。（大学生サブファシリ）
- 個別の事例をいくつか挙げてもらったおかげで、いろいろな視点から物事を見ることができた。
- 興味や関心のある参加者同士で気づきや感じたことを自由に話し合い、**相互の学び合い**も生まれたようでした。
- グループワークにおけるファシリタの問いかけが、参加者にとって非常に深い学びと気づきを深めた。
- 欧米は文化的に進んでいて好ましいが、その他の国々は遅れており（日本人より）ちょっと下に見てしまう、という偏見が自分にもあるかもしれないと、これまで意識したことがなかった自分の感じ方を、参加者自身が認識するきっかけになった。

# 基礎講座 ワークショップ（改善点）

- 参加者が日本の植民地政策についてほぼ認識がなかったことです。日本の近代史（バブル期以降の労働力不足→技能実習生制度を作ってきた背景）を若い世代にどのように伝えていくか、大きな課題ではないかと感じました。
- ワークショップの中で金先生の講演についての感想を述べ合う時間があったのもよかった。
- 自分の傷ついた体験は話しづらい人もいるかもしれないため、代わりに「周りの友達やニュースなどからでもいい「マイクロアグレッション」のようなことを気づいたり感じたりする場面」について話あった方が面白いかもしれない。
- 1時間は少し短いと感じた。

# 基礎講座 まとめ

- 参加者は講演とワークショップでマイクロアグレッションの考え方にふれ、さらに、平等主義者が無意識のうちに発するマイクロアグレッションによって海外ルーツの方がアイデンティティを否定されるような傷つきを日々受けていることを知り、どう、その解決に取り組むのか、ヒントを与えられたのではないか。(目標について)
- マイクロアグレッションの事例として金氏ご本人のルーツである在日コリアンの歴史やこの社会でおかれた立場について学び知ることの重要性に気が付いた。(海外ルーツの市民の社会的、歴史的背景を知ることの重要性)
- 日本社会をこれらの人にとって、また、他の海外ルーツの市民にとって、安心して暮らす社会に変えていく役割がマジョリティの私たちにあることに気づかされた。

参加者：26名(対面)

NGO側スタッフ：18名（講師：1名、グループファシリ：6名、サブ：12名）

## 第2回：選択講座（ステップ） 2/5（日）13:30～16:30

海外ルーツの市民のライフステージについて、現状と課題を知り、問題の根幹は何かを考え、アクションにつながるヒントを得る講座です。

以下3分野からどれか1つを選んで参加いただきます。（申込時に希望をお聞かせください。）

①「学び、社会にでていくー進学、就活を考える」

報告者：ダンス 瞳 イラリーデナディ氏、金子 ケシア氏（犬山家庭児童相談室相談員、一般社団法人DiVE.tv理事）

②「働き、生計を立てるー労働の現場を考える」

報告者：樽松 佐一氏（愛知県労働組合総連合顧問）、住吉 エリオ 洋一氏（岐阜ローカルユニオン執行委員）

③「地域で生きるー地域住民との関係、老いに向けて考える」

報告者：上江洲 恵子氏（愛知高齢者生協ケアセンターほみ管理者）、金 順愛氏（元コリアンネット愛知事務局長）

### プログラム：

13：30～14：30 現場から現状と課題の共有

14：30～16：00 ワークショップ

16：00～16：30 まとめ

# 選択講座(良かった点)

## 「共通」

- 参加者の積極的姿勢があった。(例：各自の意見を述べる。)

## 「学び・就職」

- ロールプレイで役を演じることによって、マイクロアグレッションや差別を実際に実感できたことももちろん、問題分析の時よりイメージしやすくなった。
- テーマが進学と就職なので、参加者は当事者ではなくても、周囲で見聞きしたことがあり、問題の把握をしやすいうようであった。
- 海外ルーツの学生が居て、彼のコメントによって、話の深まりが増した。

# 選択講座(良かった点)

## 「労働A」

- 樽松さん(報告者) を交えて因果関係分析をすることで、提供された話題から、さらに深く掘りさげることができた。

## 「労働B」

- 住吉エリオさん(報告者)がワークショップで必要に応じて情報提供などサポートしていただいた。事例も打ち合わせをして、こちらが望むものとなった。結論ありきではなく参加型ワークショップ(問題分析)の意図をよく理解してアドバイザーとして関わっていただいた。全員の参加で進める事ができた。
- 参加者による問題分析への貢献があった。特に、山田ロサリオさん、鶴丸さん(ふれあいユニオン)

## 「地域と老い」

- 福祉制度の問題という、多文化共生界限に留まらない問題に対する知見を得る事が出来た。

# 選択講座（改善点）

「共通」

- 問題分析の時間が足りなかった。

「学び・就職」

- ロールプレイに時間がとられた分、問題分析はそこまで深められなかった。
- データ等関連情報を5分で提示するのは無理であった。

「労働A」

- 講師に対して、問題分析に適した事例を出していただくための説明が難しい。
- 参加者に対して、問題分析手法についての説明を丁寧に行う。

「労働B」

- 労働のテーマは幅広いので、可能であれば、もう少しいろいろな事例があれば良かった。

「地域と老いA」

- 問題分析としてはツリーのスタート部分がおかしくなってしまった。

# 選択講座 まとめ

講座の目的：「海外ルーツの市民のライフステージの現状と課題を知り、問題の根幹は何かを考え、アクションにつながるヒントを得る」ことについてある程度達成されたといえる。

## 「共通」

- ・ 現場報告者6名ともワークショップ(問題分析)でも一緒に入っていたいただき、問題の確認に関連して解説もあり、理解を深めた。

## 「学び・就職」

- ・ マイクロアグレッションを教育現場、職場に限定して、ロールプレイも交えて知ることができたと思う
- ・ 参加者にとって身近な現場ということも手伝って知る事ができたのではないか。
- ・ 問題の根幹に関する議論がなされた。

在住の海外ルーツを持つ人々が増えるのは、日本社会の課題であり、その対策としての政策があり、それはつまり日本社会の危機であるが、そういった自覚がなく、社会的課題に無関心な人々が多数を占めていることに原因があるといったことが話題になった

## 「労働」

- ・ 樽松さんも、住吉さんも、技能実習生、日系ブラジル人労働者の労働問題のみならず地域とのつながりについても課題をあげていた。

## 「地域と老い」

- ・ 金氏、上江洲氏ともに、同じルーツのコミュニティの高齢化の取り組みから発展して、日本人を含む地域社会を意識した活動に広がりを見せている中で、制度の中にある人、そうでない人も、一緒に暮らすことを目指していることを知った。

# 選択講座 今後に向けて

- 6つのグループとも問題分析は参加者への説明や取り組む時間が短く、未完成に終わっているため、問題の根幹が必ずしも見えたとは言えない。三回目の最初に再度、同じグループで問題分析を整理し、構造が見えるようにしたい。
- 問題分析の手法に関して、初めてのグループファシリもいた。今後の活動でも活用されることもあると思うので、事前にPCM研修を受けるなどNGO側もJICA中部と連携して進められればと考える。
- 在日コリアンなど、オールドカマーの日本社会での経験は、他の外国ルーツの市民の取り組みの学びになるので、異なる海外ルーツの市民同士の経験交流の場があると良いと感じた。

## 第3回：アクション発表会（ジャンプ） 3/19（日）13:30～16:30

第2回を踏まえ、地域と海外ルーツの市民をつなぐ橋渡し役として、グループで課題解決に向けたアクションを検討します。

アイデアは全体で共有し、有識者（行政、当事者団体、専門家）から講評していただきます。

【講評者】大橋 充人氏（愛知県立大学客員共同研究員）、金 順愛氏（元コリアンネット愛知事務局長）、  
平山 陽洋氏（名古屋外国語大学世界教養学部世界教養学科講師）

### プログラム：

- 13：30～15：30 ワークショップ
- 15：30～16：00 全体共有
- 16：00～16：30 まとめ



全3回に参加した方には  
多文化共生パートナー育成講座の修了証をお渡しします！